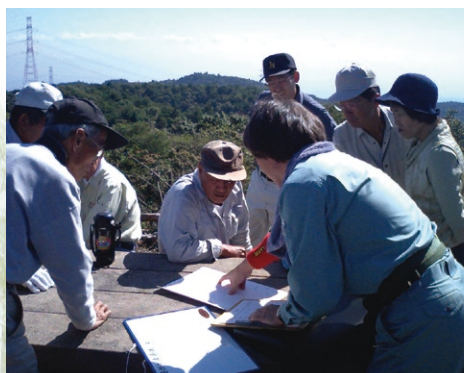


大阪府民森林組合通信

2011.6 Vol.20



「東日本大震災により、未曾有な被害を受けられ亡くなられた多くの方々のご冥福を 祈念し、謹んでお悔やみ申し上げます」

Contents

森林整備のこれから—切り捨て間伐から搬出間伐へ—

森林管理・環境保全直接支払い制度が創設…………… 2
作業道の開設…………… 3

木材の利用拡大を目指して

世界初のバイオコークス加工用プラントが高槻市中畑に完成 … 4
大阪北部地域の木材加工センターの統合とO&Dウッド … 4
大阪の木を使った社会福祉施設完成…………… 4
合板用材直送システムの動き…………… 5
限られたスペースを使いきる森林組合独自の空間提案…… 5
さようなら!! 44年の歴史に幕 大阪府立総合青少年野外活動センター … 6

大阪府民の森指定管理者となりました! …………… 6

宮崎友好の森植樹祭に参加…………… 6

ラ・フォレスタ リニューアルオープン …………… 7

山野常務理事参事がご逝去…………… 7

組合員名簿の管理についてお願い…………… 7

日々活躍 組合職員紹介…………… 8

木材市況…………… 8

林業技術・安全講習会のお知らせ…………… 8

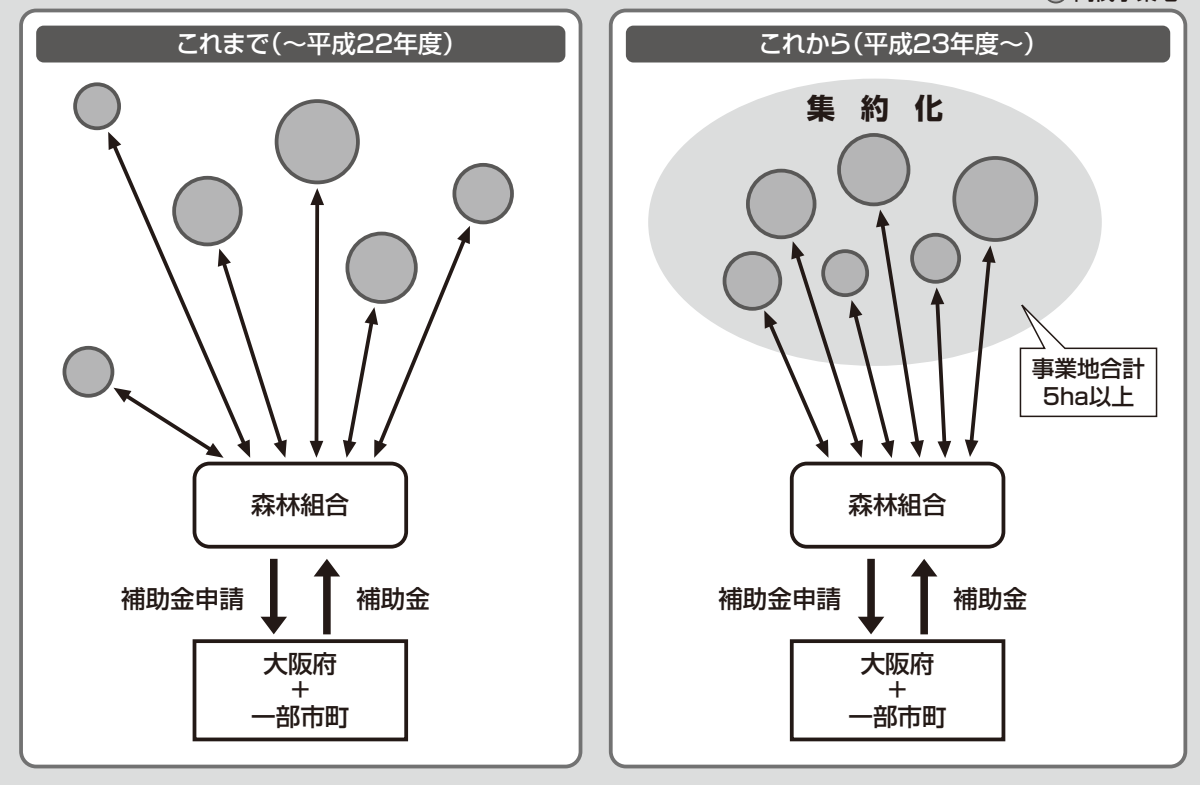
編集後記…………… 8

森林管理・環境保全直接支払い制度が創設

「森林・林業再生プラン」これは、これから10年後に我が国の木材自給率を50%以上に上げるため（平成21年度で27.8%）、造林補助制度を含むこれまでの林業の仕組みを見直し、新たな制度によって森林整備や木材搬出を進めるものです。

ここでは新たな補助制度について、分かる範囲でご説明し、また、今後木材搬出のカギとなる作業道づくりについて紹介します。

■造林補助事業の仕組み



これまで森林整備を行うにあたって、施業の集約化につながらなくても、間伐等に対する支援を受けることができたが、平成23年度から始まる「森林管理・環境保全直接支払い制度」は、小規模な所有者の森林を集約化し、路網整備と搬出間伐を一体的に進め、持続的な森林経営を実施する者に対して支援する制度に改められました。平成23年度、これまでとほぼ変わらない補助率での支援を受けるには、森林施業計画（又は市町村の立てる「特定間伐等促進計画」）の計画森林であることが必要です。特に間伐実施については集約化実

施計画の対象森林で、5ha以上集約化した搬出間伐のみ支援対象となります。平成24年度からは、新たに制度化される「森林経営計画」森林に対してのみ支援される予定です。当組合も集約化をすすめ森林経営計画を作成して、組合員の皆様の所有山林ができるだけ間伐の補助事業に適用されるよう取り組んでまいります。

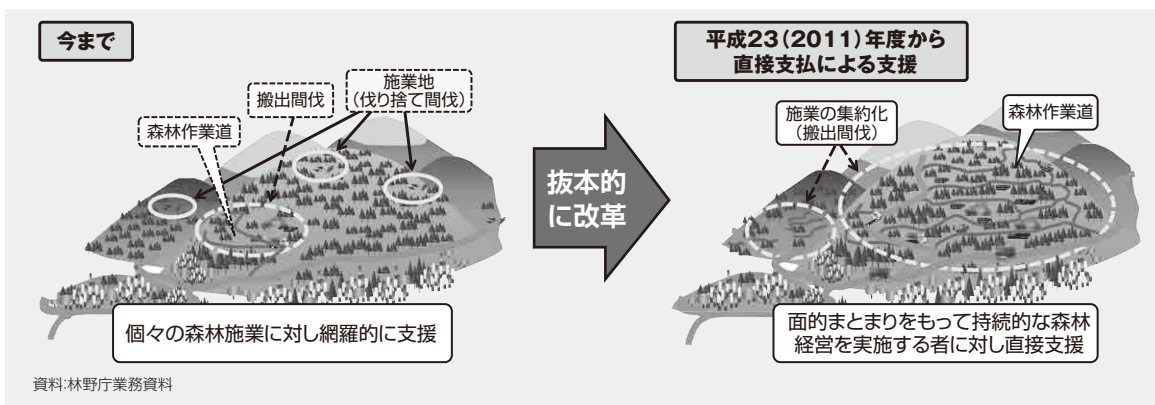
これまでとの違いをイラストにしますと下のようになります

また間伐支援には搬出が義務づけられ、実施面積1haあたり平均10㎡以上の間伐材を搬出することが最低条件です。（計画地が計5haであれば、50㎡の搬出が必要間伐の対象林齢は60年まで引き上げられました。また、経営計画の中で必要な路網密度を目標設定し、丈夫で簡易な森林作業道の整備を行い、次回の間伐に向けた基盤作りを行うこととされています。作業道の開設・改良も支援の対象です。

新しい制度の支援について主要なポイントをまとめてみます。

- 間伐支援は1計画で5ha以上の間伐と1haあたり10㎡以上の搬出
- 間伐支援の林齢制限は60年生まで（従来は35年まで）
- 目標とする路網密度に達成するために森林作業道を開設すること
- 除伐と切捨間伐の林齢制限は25年生まで
- 長期育成循環施業（高齢級林の

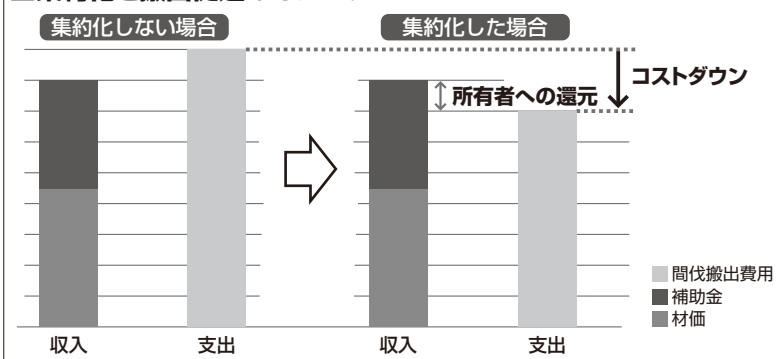
複層林誘導）としての支障木等の伐倒搬出等を「更新伐」といい、90年生までが対象。● 全作業種ともに事業地1件あたりの面積は0.1ha以上であること



直接支援される標準の単価は、国が選木、伐倒、造材、集材等の標準となる工程を示し、都道府県がこの工程を基に、賃金、地域の

樹種、平均径級に応じて標準単価を設定することとなります。ただ、本紙を編集している段階では、単価がこれまでの補助と比べてほとんど変わらないのか、あるいはある程度の差があるのか、全く分からない状況です。今後、単価が想定できるようにすれば、今年度の事業量など計画が立てられるようになります。

■集約化と搬出促進のイメージ



当組合として、森林管理・環境保全直接支払い制度の支援を得て、組合員皆様の森林整備が一層進められるよう取り組みを進めたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

森林整備のこれから

―切り捨て間伐から搬出間伐へ―

作業道の開設

木材搬出をすすめるためには、材価の上がない現状でも収支バランスが成り立つように、できるだけ搬出コストを下げなければなりません。搬出費用を下げるためには他の産業と同様に機械化が欠かせませんが、さらに機械が活躍するための「道」が必要です。とりわけ、間伐の補助事業でも一定の搬出が義務づけられた今後はなおさら「道」の存在が重要になります。

すでに他府県の森林組合では、複数の所有者をとりまとめた集約化施設団地で作業道を開設することにより、効率的に間伐材を搬出しているところもあります。当組合のプランナーや開設技術者もこれまでにモデル組合（作業道開設を取り入れて集約化施設を先進的に進める森林組合）である日吉町森林組合（京都府）や松阪飯南森林組合（三重県）、三次地方森林組合（広島県）など他地域の事例を見学し、参考にしてきました。

特に幅員3メートルで2トン車の通行を目安にした「作業道」開設にあたっては、府内で長年設計測量をおこなってきた専門コンサルタントの技術指導も受け、地元・大阪での道づくりの技術向上に努めています。

また、より丈夫な道を追求すべく、豊能支店管内ではO&Dウッド（次頁参照）による土留め工も取り入れました。

平成22年度は森林整備加速化・林業再生事業や河内長野市単独事

業などにより、府内全域で基幹作業道を約4200m、作業路を約8400m開設しました。

すでに一部路線では、間伐搬出作業も進んでおり、当組合の所有するグラップルによる集材、積込みやフォワーダによる林外土場への搬出に作業道等が活かされています。

また、三島支店管内高槻市では、国庫補助事業に高槻市からの上乗せ補助により、ハーベスタをこの3月に導入しました。ハーベスタとは1台で伐倒・枝払い・玉伐りを短時間でこなす高性能林業機械の1種で、路網密度の高い搬出現場で、著しく効率化を図ることのできる優れた機械です。今後さらにハーベスタが活躍できるように道づくりがすすんでいけば、搬出作業の低コスト化が実現可能となります。

森林・林業再生プランでは従来は作業道や作業路と称していた木材搬出のための道を「林業専用道」「森林管理道」と名前を変えて、丈夫で簡易な使いやすしい道づくりの指針をまとめています。

当組合でも今年度以降も道づくりを進めていきますが、地域の所有者の合意がなければ合理的な道づくりは不可能に近いです。道があれば、山林の管理もとても楽になるメリットもあります。ぜひとも組合員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



兵庫県神河町にて 経年で植生回復する丸太構造物



日吉町にて 開設状況見学



基幹作業道（貝塚市蕎原）



ハーベスタによる造材作業
道があれば高性能林業機械の活躍などにより
搬出作業の低コスト化がすすみます



簡易作業路（高槻市成合）



O&D ウッドによる土留工

木材の利用拡大を目指して

最新版の森林林業白書に以下のような記事があります。

我が国の住宅着工戸数は昭和48年に過去最高の191万戸を記録した後、若干の増減を繰り返して、平成3年以降は減少傾向にあり、平成21年は対前年比79万戸に減少している。木造率は平成に入ってから45%程度で推移していたが、平成21年は着工戸数減少の中で木造住宅の減少幅が比較的小さかったことから55%に上昇している。(以上 要約)

木材需要は、現在でも建築材としての利用に最も支えられていますが、住宅着工数は減少しています。建築工法も構造用合板を活用するツーバイ

フォーが普及し、在来工法であっても集成材などによるプレカット材が拡大し、昔のような無垢材の需要は大きく期待できない現状です。

木の良さを知らない、忘れた消費者に良質な木の生かし方、言い換えれば「木の文化」をアピールする大切さを感じずにいらませんが、一方で現状認識したうえで木材の利用拡大も考えなければ、これまで育ててきた木を山に放置することにもなりかねません。

当組合では、内装材での活用や合板への進出など建築での利用を広く進めるほか、土木資材やバイオマス利用などで、使い勝手のよい製品化など利用拡大に取り組んでいます。

世界初のバイオコークス加工の商業用プラントが高槻市中畑に完成

高槻バイオコークス加工場の竣工式を実施しました



完成した製造プラント



奥本市長(写真中)と久保市議会議長(写真手前)、古川組合長がプラント稼働のスイッチを押す
(肩書きは平成23年4月23日現在)

原料として茶葉やコーヒー、ジュースの絞りかすといった食品残渣だけでなく、現在では外来植物であり、湖沼や河川での繁殖が懸念される「藻」も原料となることが確認されています。

当組合では、今まで林内に放置してきた間伐材を搬出し有効活用する機械化林産事業に取り組んでおり、今後、高槻を中心とする北摂エリアで搬出した間伐材の有効活用方策の一つとして、バイオコークスに着目し、平成21年度より国の補助事業を活用してバイオコークス製造計画の推進を図ってまいりました。

今回、完成した加工場は幅30m、奥行き20m、高さ9.53mとプラントとしての規模は、さほど大き

大阪北部地域の木材加工センターの統合とO&Dウッド

豊能支店では、大阪北部地域の木材の流通・加工の効率化と販売拡大を図るため、昨年6月に高槻木材加工センターを能勢木材加工センターに統合しました。

技術の集約化と機械類の合理化を図り、これまでの取り扱いを継続しながら、O&Dウッド(高耐久化防腐処理木材・10年保証)の利用拡大に取り組んでいます。

「鉄・コンクリートから木材へ」をテーマに掲げ、これまでのコンクリート構造物を可能な限り

木材へと置き換えるべく提案営業を行っています。

O&Dウッドは、推定30年以上の耐久性を持ち、CO₂を長期的にわたり固定し、鉄・コンクリートに比べても製造時のCO₂排出量が10分の1以下に削減できるなど、CO₂排出削減、地球温暖化防止に寄与し、環境に優しい木材利用方法の一例としてPRしています。

現在では、出荷量は年々増加傾向にありますが、年200m程度とまだまだ小規模です。今後は土

おおさかの木を使った社会福祉施設完成

泉佐野市内に、大阪府内産木材をふんだんに使用した高齢者社会福祉施設が完成しました。

現在、軽費老人ホームを運営している社会福祉法人 来友会様が、高齢化しても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・介護・居住のサービスを一体的に提供できる施設として、大阪府の平成22年度木造公共施設等整備事業の支援を受け建設されました。

来友会様では、施設内の木の香りと木の優しさに包まれた空間が、高齢者がこれまで住み慣れた住まいから移り住む時に生じるストレスを抑えるのに効果があると考え、建設された2棟の施設は床・壁・天井の内装材をはじめ、柱や梁などの構造材や外壁の板、それに床下地や屋根下地の構造用合板に至るまで大阪府内産の杉・桧材を使

用し、木材使用量は2棟で約164m³になりました。

利用する木材のコンセプトとして、①間伐材の使用を積極的に進めるために内外装仕上げ材に、節のある一等材の小幅板を使う。②コストを抑えるために流通量が多い長さ4m以下の木材を使用する。③大規模な木造建築物にも一般の木造住宅でよく使われている120角の柱や120幅の梁などを使用するなど、出来るだけ普通の住宅部材を用いて建てたいとの考えで、そのことは木材の供給において品質安定、納期短縮、コストダウンに結び付いています。

4月22・23日の2日間、来友会様の主催で完成見学会が開催されました。森林組合からも木のPRのため参加させていただきました。来場された今後の施設建設を考え

O&Dウッド床固工(4基)及び護岸工



野間地区治山ダムほか(22・奥地)工事
(施工地:能勢町野間稲地)

木分野へ進出するなど、将来的には年1,000m³を目指します。

ておられる事業者やご近所の方からは「やっぱり木は温もりがあって気持ちがいいね。」とのお言葉を多数いただきました。

組合では引き続き、良質な府内産材の供給と利用促進に努めて参ります。

(設計:桑原年弘建築設計事務所)



大阪府内産材の内装(写真:母倉知樹)

くはありませんが、据え付けられた機器類は原料の水分量を調整する木質ペレットを熱源とする円筒形の乾燥炉が中央に設置され、原料を圧縮・加温して製造する反応筒と呼ばれる36本のシリンドラーが整然と並ぶ姿は圧巻です。

今までは4本の反応筒からなる実用製造プラントが最大のものでしたが、原料の定量供給装置や乾燥炉までを備え、36本の反応筒からなる24時間稼動可能な商用プラントは、当組合が設置したものが世界初、かつ最大のものとなります。

設置されたバイオコークスプラントは各部の調整を行ったうえで、平成23年6月から操業を開始する予定です。当面は試行的な操業とし、設備や実証・検証を兼ねたバイオコークスの製造を行っていく計画としています。

この高槻市中畑地区に設置された世界初のプラントは、新たな木材利用手法として森林・林業界のみならず、石炭コークスを熱源として利用する鑄鉄・鉄鋼など各界から注目されるものと思われます。当然、組合の新たな事業として確立させていくことが必要であり、施設を設置した三島支店のみならず、組合全体でバックアップしていく予定です。

合板用材直送システムの動き

保育から利用へと、補助体系が変わりつつある中、いくら木材の搬出量を増やしても、大口需要者を作らなければ供給過多となってしまう、現状以上に値崩れを起こす可能性があります。

一方、これまで北欧材を中心に輸入し加工していた合板メーカーは、関税引上げ等もあって、国産材を中心に利用出来ないものかと検討してきました。これまで輸入材を中心に使っていたのは、品質・量ともに安定していたからです。

そこで、各県の森林組合連合会では、合板工場等と安定供給のため協定を結んで、国産材針葉樹合板の利用を進めてまいりました。

原木をA〃Cランクに分けた場合、Aは建築用材、Bの並材は合板、Cは不良材で製紙やMDFなどチップ化して利用されます。

これを林産現場で仕分けを行い、B材、C材を直送することで、運搬コストの節減をし、森林所有者への材価還元を多くしようとするものです。

平成22年度の近畿各府県の合板

工場直送予定数量は左記のとおり。

府県名	予定数量(m³)
三重県森連	6,000
滋賀県森連	4,500
京都府森連	13,589
兵庫県森連	5,000
和歌山県森連	15,000
奈良県森連	900(ラミナ用)
大阪府森林組合	500

当組合におきましては、ひとつの販売チャンネルとして、持つておきたいという考えから協定を結んで取り組んでおります。

決して高額で売れるとは言えませんが、販売価格が決まっているため、山主さんへの立木価格還元が読めるというメリットは大きいと思われる。

搬出間伐のご提案をさせていただく場合は、従来どおり共販所でセリにかける方法と、この直送するシステム販売を組み合わせて販売する方法のいずれかを、組合員

様に選択していただけるようにして取り組んでまいりたいと考えております。

木材価格低迷の折、少しでも立木の売上を手元に残したい。組合員様と一緒に頑張っていきたいです。



薄くカットした単板を積み重ねて接着剤とプレスによって合板ができます



府産材合板の屋根下地

建築事業部 注文住宅レポート

限られたスペースを使い切る

森林組合独自の空間提案

空間を広く見せる工夫と
大容量収納の確保

平成23年3月、大阪府東部の住宅密集地域に、2階建、延床面積約31坪の住まいが完成しました。

北面道路側は通行人からの視線をさえぎるため、スリット窓や縦ルーバーを採用し、プライバシーを確保。一方、LDKに面する南東の中庭側からは、たっぷりと光と風を取り込んでいます。また、和室の収納下に地窓を設け、圧迫感を解消するなど、空間を広く見せる工夫が数多く盛り込まれています。さらに、今回特徴的なのが収納スペースです。2階主寝室上部の天井裏をすべてロフトにすることで約7坪もある大容量の収納スペースを確保しました。



▲共有の勉強スペースと北側スリット窓

可変性のある空間を
効率的に使い分ける

限られたスペースの中で3人のお子さんの個室を確保するため、個室は「寝るための部屋」と割り切り、約10畳の部屋を可動間仕切りで3分割しました。そして、北側の別室に共有の勉強スペースとしてカウンターと壁一面の書棚を設けました。お子さんが独立してからは、可動間仕切りをはずすことで広い部屋として利用できるようにも考えています。

ローコストの工夫も忘れていません。通常は隠してしまう構造用合板ですが、桧合板を採用し、見せて仕上げることで、コストの削減にも努めています。

このような様々なアイデアが凝縮されたこちらの住まいにて、先日完成見学会を開催しました。ご来場の皆さまも一様に感心され、桧の香りに驚かれていました。竣

問
合わせ

0120(630)854
http://www.sirin.org

リフォームで資産価値の向上と入居率アップを!

マンションリフォームしませんか?

建築事業部では新築だけでなく、マンションのリフォームも手がけております。先日、組合員様所有の賃貸マンションのリフォームをさせていただき、オーナー様からは、品質、価格共に、お喜びの声をいただいております。

マンションの内外装修繕工事や内部改修をお考えの際には、是非お気軽にお声かけくださいませ。

▼リフォーム完了



▲施工前

さようなら!! 44年の歴史に幕 大阪府立総合青少年 野外活動センター

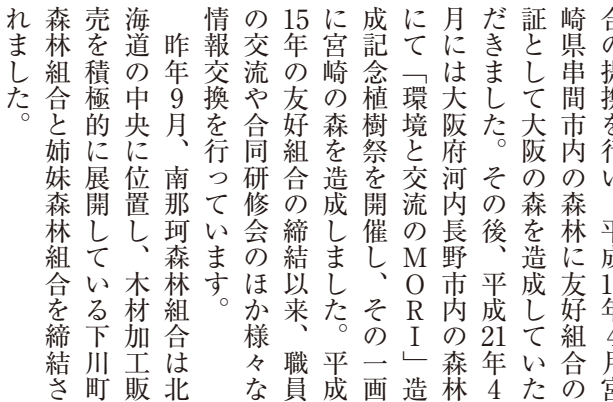
能勢町にある大阪府立総合青少年野外活動センターが44年の歴史を閉じ平成23年3月31日に閉所しました。昭和42年に『東洋一』の大規模野外活動施設としてオープン以来約370万人のキャンパーを迎え入れ、青少年の健全な野外活動の場として多くの府民に愛されてきました。当組合は平成18年から5年間、指定管理者としてこのセンターの管理運営業務を行なっていました。指定管理者に選ばれてまず最初に手をつけたのは、明るい森、安全な森を整備することでした。明るく安全な森は



ンにより施設の老朽化及び耐震性の問題で、惜しまれながらこの3月末をもって廃止されました。施設運営管理者としてさらなる向上をめざし5年、10年、15年と指定



管理者を目指してきましたが、残念です。施設は廃止されましたが、この5年間で学んだノウハウを組合事業に生かしてゆきたいと思えます。



宮崎県の最南端にある南那珂森林組合とは、平成14年11月友好組合の提携を行い、平成15年4月宮崎県串間市内の森林に友好組合の証として大阪の森を造成していただきました。その後、平成21年4月には大阪府河内長野市内の森林にて「環境と交流のMORI」造成記念植樹祭を開催し、その一画に宮崎の森を造成しました。平成15年の友好組合の締結以来、職員

の交流や合同研修会のほか様々な情報交換を行っています。昨年9月、南那珂森林組合は北海道の中央に位置し、木材加工販売を積極的に展開している下川町森林組合と姉妹森林組合を締結されました。それを契機とし、南那珂森林組合・下川町森林組合・大阪府森林組合の3組合による友好の森植樹祭が平成23年1月8日宮崎県串間市内で開催され、大阪からも14名の役職員が参加しました。当日の朝は零度まで冷え込み、植樹会場では大きな霜柱が立っていました。会場は平成15年に植樹祭を行った場所に隣接する串間市有林で、遠く鉄肥杉の山並みが見渡せる絶好のロケーションでした。式典は島田南那珂森林組合長、地元野辺串間市長様のご挨拶の後、先ず3森林組合長による山桜の記念植樹が行われ、その後参加者は約2haの森林に植栽を行いました。大阪から参加した私達は、大阪府の木であるイチヨウやこの地域の代表的品種である鉄肥スギを植栽しました。植樹祭は、この苗木の健全な成長と3森林組合のますますの発展を祈念し、万歳三唱を行い閉会となりました。植樹祭終了後には、8年前に植栽した大阪の森に立ち寄ることができました。よく手入れがされており、木々は大人の背丈を越える程にまで成長しており、日々の管理に改めて感謝申し上げます。

大阪府民の森の 指定管理者となりました

大阪府民に親しまれている大阪府民の森(くろんど園地、ほしだ園地、むろいけ園地、くさか園地、ぬかた園地、なるかわ園地及びみずのみ園地、ちはや園地)の管理運営業務を行う指定管理者の公募がありました。公募方法は管理運営業務をより効果的・効率的に行う理由から、3つの区域「北河内地区」「中河内地区」「南河内地区」に分割され行なわれました。当組合は北地区を財団法人大阪府みどり公社、特定非営利活動法人里山サロンと、中地区・南地区は財団法人大阪府みどり公社と共同事業体をつくり公募し、見事3地区すべてにおいて指定管理者に選定



ぬかた園地 あじさい園



ほしだ園地 クライミングウォール



ほしだ園地 吊橋(星のプランコ)



左から山下組合長(下川町)、島田組合長(南那珂)、古川組合長



<http://www.sinrin.org/foresta/>

金剛山へ向かう道 緑豊かな山間に建つ

「ラ・フォレスト」がリニューアル

ラ・フォレストが リニューアルオープン

南河内林業総合センター「ラ・フォレスト」の創設10周年を記念して、4月8日にリニューアルオープン致しました。5月8日までの期間はリニューアルオープンフェアと致しまして、コーヒー・紅茶の無料サービスと粗品プレゼントを行い、たくさんのお客様にご来場いただきました。尚、リニューアルに伴い、開館日が金土日祝となりましたので、ご注意いただきますよう、お願い致します。

木工作家による 本格的な木工教室開始

リニューアルと同時にラ・フォレストに隣接する工房にて、本格的な木工教室を開始致しました。講師は当工房で家具を制作されている小山亨先生と林靖介先生。生徒の皆さまからは「親切丁寧な指導で分かりやすい」「空気や景色の美しいところでの作業は集中力も一層高まり、心が洗われるように感じる」「週1回教室に来るのがとても楽しみ」と早速ご好評をいただいております。小山先生の教室は金曜日、林先生の教室は土曜日に開催しております。随時ご見学もしていただけますので、お気軽にお問合わせください。



クラフト展示販売の様子

地元クラフト作家による 展示販売を開催

ラ・フォレスト館内ではクラフト展と致しまして、隣接する工房で制作された木の家具や小物のほかに、主に地元で活動されているクラフト作家の方々によるガラス細工や彫金アクセサリー、陶器や茶葉などの展示販売を行っています。いろいろな作家さんの作品を一堂にご覧いただくことも、リニューアル後の新たな試みとなっております。また、お立ち寄りいただいたお客様の休憩スペースとして「くつろぎコーナー」を設けており、大きな窓から望める里山の風景を見ながら、ゆったりとした時間を過ごしていただけます。ご自由にお読みいただける森林関連の書籍なども多数設置しておりますので、是非お気軽にお越しください。

地元水彩画家による ワークショップ開催

4月10日の午後より、千早赤阪村の里山の風景を描いていらつしやる水彩画家の下地愛樹先生による水彩画ワークショップを開催しました。先生の優しく丁寧な指導のもと、皆さん一心不乱に描いていらつしました。

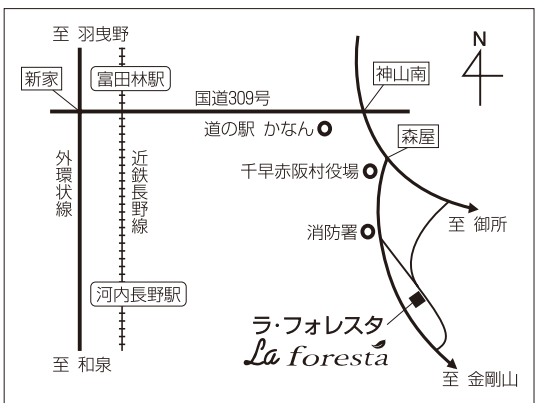


水彩画ワークショップの様子

次の水彩画ワークショップは、6月19日に開催致します。下赤阪地区の棚田を描きに出かけますので、初の屋外開催となります。ご期待ください。

この他にも、5月1日より始まる「木彫り塾」、7月中旬開催予定の陶芸教室「マイタンブラーづくり」など、さまざまなワークショップを開催致しますので、是非皆さまお誘い合わせの上、ご参加ください。

最後に、今回のリニューアルオープンと同時に、新たにラ・フォレストの企画販売を担当させていただくことになりました谷口真名美と申します。ラ・フォレストに來たばかりではありますが、緑あふれる風景（視覚）・鳥のさえずり（聴覚）・木の香り（嗅覚）・木工教室やクラフト展、ワークショップ等のイベント（触覚）等と五感をフルに活用して楽しむことができるこの施設を、「より多くの皆さまに知っていただきたい」と強く感じております。分からないことばかりですので、お客様やまわりの皆さまにいろいろな指導をいただきながら、林業情報の発信拠点として、より広く利用していただける施設にしていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



尚、今後のイベントにつきましては、ホームページにも掲載しておりますので、是非ご覧くださいませ。

（お問合わせ ラ・フォレスト）
0721・72・0090

山野常務理事参事がご逝去

当組合の運営に情熱を持って活躍いただいております山野勝徳さんが、平成23年3月9日突然、病魔に襲われ、57歳の若さで帰らぬ人となりました。

氏は、昭和53年4月千早赤阪森林組合の職員となつて以来、昭和57年12月の富田林市、河内、葛城、千早赤阪の4組合が合併した南河内森林組合、さらに平成13年10月に大阪府内の十六森林組合が合併し発足した大阪府森林組合の職員として、大阪の森林の保全整備に一貫して携わつてこられました。

この間、地元南河内地域の森林の入手はもとより、林道の整備や地域林業の拠点施設である南河内林業総合センターの建設に尽力されました。

また、大阪府森林組合では、現場の経験や特に経理に対する

豊富な知識を背景に、総合管理課長として、全国で初めての一府県一組合の組織・体制作りに取り組まれ、平成19年4月には、組合の運営をすべて切り盛りする参事に選任され、さらに平成20年8月には常務理事として、森林バイオマス利用の推進等、都市型の森林組合の発展に大きな力を発揮していただきました。

組合合併後十年を経過しましたが、まだ数多くの課題が残されており、山野常務を頼りにしておりましたのに、痛恨の念に耐えません。また、氏もさぞ心残りであつたろうと思います。

我々役職員、今後組合をより一層発展させていくことが、氏に対するはなむけと考え、精進してまいります。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げ、ご報告いたします。

組合員名簿の管理についてお願い

森林組合は現在7,100名を超える森林所有者の皆様にご加入いただき府内各地域で組合活動を行っています。平成13年10月の合併以来、10年が経過しようとしています。相続等による名義変更や住所変更があった場合は、組合員名簿の管理上、組合員変更届出書の提出をお願いしております。届出用紙は各支店に備えておりますので、お問合わせください。

正組合員の加入資格は森林所有者であることと定款に定められています。森林を全て手放さ



林業技術・安全作業講習会のお知らせ

林業技術の向上と安全作業の確保のため、各号のくみあい通信にてお知らせしている林業技術や安全作業に関する講習会ですが、前は昨年12月9日、枝打ち技術やかかり木処理について、林業作業を行って方々に多数参加いただき開催しました。



さて今回は、チェーンソー・刈払機などの林業機械のメンテナンスと安全作業というテーマで下記のとおり開催いたしますので、是非この機会にご参加いただきますようご案内申し上げます。

■講習内容

林業機械のメンテナンスについて（講師 小川機械）

■日時

平成23年7月8日（金）午後1時30分～

■集合場所

河内長野市立林業総合センター 大会議室
（お車の方は、花の文化園宮ノ下駐車場をご利用ください）

■服装

作業のできる服装と履物をご用意ください。

■申込先

大阪府森林組合南河内支店 TEL0721（63）0850

編集後記

3月11日に発生した東日本大震災は東北・関東地方に大きな被害を及ぼしました。森林組合系統でも、役職員や作業班で亡くなられた方もあり多くの方が被災されました。お亡くなりになられた方にはご冥福をお祈りするとともに被災地の復興を願うばかりです。

この度の大地震に伴い発生した津波は想像を絶するもので、多くの家屋と共に福島第一原発を襲いました。その原発事故はいまだ収束せず多くの方が避難を余儀なくされています。電力の安定的な供給に支障が出ており、計画停電やサマータイム導入など節電の動きが進んでいます。原子力の安全神話は完全に崩壊してしまいました。今回の地震は、我々の生活が便利さを追い求めいかに電気に依存していたかということを改めて思い知らされました。薪・炭から石炭・ガスへ、そして石油・電気へと生活を支えるエネルギーは変化してきました。今ではあらゆるものが電気無しでは動かなくなっています。

そのような中、わが大阪府森林組合が世界で初となるバイオコークスの量産工場を建設しました。原材料は組合員の森林から伐採する間伐材です。太古に地中に蓄えられた二酸化炭素を排出する化石燃料である石炭コークスに比べて、バイオコークスは二酸化炭素の排出量と吸収量が同じ‘カーボンニュートラル’と言われています。バイオコークスで森林の間伐とその利用を進め、地球温暖化対策としてのCO₂削減の期待を大きく背負うと共に、電力依存のエネルギー政策からの転換の一助となるよう組合を挙げて取り組んでいきたいと思ひます。

日々活躍組合職員紹介

今回は泉州支店に勤務する木下茂雄さんを紹介しします。

森林組合職員のなかで1、2番の若さを誇る木下さんは、だんじり祭りで有名な岸和田で生まれ育ち、青年団員活動をしている平成19年、20歳のときに大阪府森林組合泉州支店に採用となりました。少人数で和泉市から岬町までの広範囲の管轄エリアを持つ泉州支店において、様々な森林整備の現場を担当し、支店長の片腕として、日々管内を走り廻っています。

現在は森林整備加速化事業地の取りまとめのため、組合員さん宅の訪問も多くなり、丁寧で熱心な説明ぶりは、地域の組合員さんから信頼が厚くなってきました。

また、物怖じしない性格で、現場周りの空き時間には、看板などの木製品の販促のため企業や店舗に飛び込み営業を行うなど支店の売上げアップに貢献しています。

休日は地元町会での清掃活動などで駆り出されることも多く、飼育しているカブトムシに餌を上げることが一番の気が休まる時間だとか…。

現在、一人住まいで炊事、掃除、洗濯もお手の物のいう森林組合において貴重な独身職員です。



木下茂雄さん

木材市況

今年の冬は例年になく積雪にみまわれ、木材搬出が計画どおり進まないという場面も見受けられましたが、取扱数量及び売上金額は昨年実績を上回っており、出荷者、買い手の皆様にお礼申し上げます。

3月25日に開催した春季特別市では、久しぶりに共販土場が木材でいっぱいとなり、優良材が多く出品されたこともあり、活発なセリ売り風景となりました。全体で390㎡がセリに掛けられましたが、中でもヒノキ7m末口40cmが150千円/㎡、ケヤキの大径木5.6m末口82cmが260千円と特別材は高値で取引がされました。

東日本大震災直後、報道されているとおり合板材の供給が追いついていない為、その原材料となるスギ4m末口24～28cmの一等材が㎡当たり2～3千円の値上がりが見られましたが、その後相場は戻りつつあります。

また震災後、買方のお客様からは良質な柱材の注文が減少しているとのお話も聞いており、我々も相場の動向を注視して参ります。

■平成22年10月～23年3月 販売実績と平均単価

樹種	取扱量（㎡）	平均単価（円）
スギ	586	15,357
ヒノキ	1718	24,295
広葉樹	121	66,256

2011 丸大の夏ギフト

ご贈答には、丸大のハム・ソーセージの詰め合わせをどうぞ。

お問い合わせ先

丸大食品（株）関西特販営業課

大阪市西成区津守2-1-10 TEL06-6657-0071

おいしさ新鮮

丸大食品